

かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 91 号

平成 9 年 7 月 15 日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 医学部附属動物実験施設 稲場 茂)

野に咲く

新入生を迎えて……………清水 哲也… 2 新入生を迎えて—One more for the road— ……中村 正雄… 3 主体的な学習を……………阿部 典子… 4 医学科新入生記念写真…………… 5 平成 9 年度医学科入学者名簿…………… 5 看護学科新入生記念写真…………… 6 平成 9 年度看護学科入学者名簿…………… 6 新入生を迎えて……………水上 周二… 7 新入生を迎えて……………武田奈津美… 7 平成 8 年度学位記受領者名簿…………… 8 平成 9 年度大学院入学者名簿…………… 8 外国人留学生一覧…………… 9 研究室紹介……………細菌学講座… 9 新歓合宿を終えて……………北川 敬之…10	大学祭実行委員会より……………豊島 優人…10 クラブ今昔 サッカー部……………吉谷 敬…11 旭医大バレー部創設期の思い出…相馬 光宏 ……平田 哲…11 室内合奏団……………二川原真治…12 女子学生のひろば……………清光祐貴子…12 学内ニュース 平成 9 年度入学式……………13 新入生研修実施される……………13 平成 8 年度学士学位記授与式……………13 平成 9 年度運営組織……………13 平成 9 年度の主な行事……………14 教官の異動……………14 窓 外……………橋本 喜夫…14
--	--



新入生を迎えて

学長 清水 哲也

皆さん、入学おめでとう。

希望に満ちあふれる、一人ひとりの輝くばかりの表情をみるにつけ、「入試」という難関を切り抜けて、見事、栄冠を勝ち取られた皆さんへ、あらためて、心からの祝福を贈ります。

そしてまた、優秀な新入生の皆さんを、今日まで手塩にかけて、はぐくみ育ててこられたご父兄の皆様へ、敬意と祝意を捧げたいと思います。

新入生の皆さんが、今から、その第一歩を踏み出そうとしている医学および看護学の道は、決して単なる診療技術、看護技術そのものを意味するものではありません。

診断技術や治療手技あるいは看護手技といった技術的なことを学ぶ前に、「医の心」あるいは「看護の原点」に深く思いを馳せてください。今日、「社会」が皆さんに求めている「期待される医師像あるいは看護婦像」というものが如何なるものかを、是非とも真剣に考えてほしいのです。

そのためには、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性、自主的な判断力を常に養い、より高度な社会性を身につける必要があります。「初心忘るべからず」です。生涯を通して学習し、「未知なるもの」へ敢然として挑戦する勇気を持ってください。

そしてまた、ただ単に専門分野のみにとどまらず、全般にわたる広い視野と高い見識を保持して下さい。

人間性あふれる豊かな感性と、「病める人達」への限らない暖かさに満ち満ちた医学生・看護学生であってほしいのです。

さらには、生命倫理に対する深い畏敬の念を片時も忘れず、常に病める人達の立場に立つこと、つまり、人の痛みをわが痛みととらえることの出来る医療人であるためには、単に医学や看護学のみでなく、その周辺領域に係る知識と深い教養を、是非とも学び取って頂きたい。

今こそ、私ども医療に携わるものは、フーフエラ

ンドの「医戒」の冒頭の言葉の重みを反芻する必要があります。

「病んでいる人を見て、これを救おうと願う情念、このことこそが、医学・看護学の原点であり、医療人は他人を救うためにこの世に生を得ているのであって、自分一個人のためではない。これこそが、医療人という職業の本質である。」と説いているのであります。

また、今や医学・看護学は、激動する社会事象から隔絶された「病院」の中にのみ孤立して存在する時代ではなくなりつつあります。したがって、限られた期間に幅広い教養と医学・看護学の専門的学習を両立させるためには、必ずしも一般教育、専門課程という形式的な区分にとらわれる事なく、全体を一貫とした観点から考える必要があります。

看護学科2期生として入学された皆さんに申し上げます。看護学科1期生と同じように、新しい「校舎」はまだ出来ておりません。文部省の大変な努力で、平成8年度の「補正予算」が投入され、この大規模工事が開始されましたが、当面は医学部医学科の既にある建物を取り敢えず利用しての授業が、当分続くこととなります。しかし、平成10年度中には新しい「校舎」へ移転できる見通しです。

大学における新しい学科の創設には、この種の非常事態が付きまといまいます。医学部医学科の1期生の諸君が入学した時も、校舎など全くなく、ただ広漠とした原野がそこにあるといった状況の中で、教育大学旭川校の附属小学校旧校舎を使っただけの授業といった、辛い日々でありました。

「包括医療」を荷う医療人としての中核的存在である医師・看護婦を目指して研鑽されることを期待し、希望に満ちあふれた皆さんの前途に、再度、祝福を送ります。



新入生を迎えて

～One more for the road～

医学科第1学年担当 中村正雄

新入生を迎えると、私自身が30年ほど前に札幌の大学に入学した時のことを改めて思い出します。といっても、以前勤務した大学の附属研究所で院生を相手にしていた頃は、そんなことは思いもよりませんでした。私が入学した1965年の北海道の春は大雪でした。郷里を汽車で発つ頃は桜がほころび始めていましたが、一夜明け函館を過ぎると一面の銀世界でした。私にはこの時の入学式の出席が最後で修士や博士課程の修了式に出席していません。当時は慣習や儀式に対する学生の異議申し立ての時代で、事実入学式や卒業式が学生運動の批判の対象になっていました。教官と学生はしばしば対立していましたが、人間関係は今よりも密でした。またこの30年は、日本の経済が復興から著しい成長に転じた時代です。1980年代の後半、留学から帰って国電（現在のJR）に乗りました。この時向かいの座席の乗客達の服装が、私が住んでいたアメリカ東部の下町の人々や学生に比べ、はるかに良いことに改めて気が驚かされた記憶があります。1950～1960年代、ラジオやTVから伝えられてくるアメリカは、豊かさの象徴でした。しかし、1980年代になると私達の食事や衣類といった消費生活はアメリカの豊かさを越えていました。先日、皆さんの入学式とガイダンスに出席しそんなことを思い返していました。

異なった街や環境で新しい生活のスタートを円滑にし楽しむためには、いくつかの要素が必要だと思います。私見では、まず良い知人に会うこと。それも友達であればベストです。おいしい食べ物に出会うこと、これも元気の源です。次に良い風景でしょう。1番目と2番目は個人的な好みがあります。旭川の周囲を見回すと3番目は事欠かないように思います。旭川は歴史を感じさせるものは特にありませんが、川に恵まれ並木も多く散歩には格好です。郊外に足を伸ばすと森や丘陵が多く、秋になると緯度

の近いアメリカのニューイングランド地方を思わせる風景があります。オランダの知人は旭川郊外のカラ松林に出会い、彼の田舎にも似ていると言います。

御存知のように旭川医大は開学から数えると皆さんと同じ世代になります。本学の創設にかかわった方々の退官がしばらく相次ぎ、その最終講義で当時の苦心を語られています。講義のための校舎が開学に間に合わず、借用した部屋は朝、雪が降り込んでいたこと。開学そのものが予定の4月から遅れ、限られた時間にカリキュラムを消化しなければならず、教官も学生も休みなしであったことなど。このように旭川医大の第一世代の方達の共通体験には創設期の苦心と充実感が感じられます。それから20年経った現在、皆さんはどんな期待で本学に入ったのでしょうか？旭川医大も社会の動きと無縁であろうはずもありません。今後、皆さんと同じように困難な成熟期へと向かわなくてはならないはずですが、これからの皆さんの6年間はまたたく間に過ぎていきます。皆さんが小さな時、周囲から言い含められた“大学に入れば大丈夫”といった誤りからまず自分を放つことからスタートして下さい。

さてタイトルに触れましょう。F.シナトラの歌う“*One for my baby and one more for the road*”から借用しました。閉店間近い夜更けのバーで、馴染みの客がバーテンダーに語る言葉で、“生まれた子供のために、それから道往くためにもう一杯”といった意味なのでしょう。入学にあたり皆さんの希望を支えて下さった方々をもう一度思い出して下さい。きっと今頃、皆さんのことを思い浮かべ祝杯をあげているはずですよ。

(化学 教授)



主体的な学習を

看護学科第1学年担当 阿部典子

看護学科新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは、多くの志望者の中から看護学科2期生として選ばれ入学しました。入試という難関を乗り越えての入学は、皆さんが自分自身で成し遂げたことです。入学式で感じたであろう誇らしい気持ちを忘れないでください。それと同時に満足しきらないでほしいと思います。

大学生として、看護を学ぶ者として歩もうとしている卒業までの4年間は、決して容易な道程ではありません。これからの4年間、皆さんには、忍耐力 (patience)、粘り強さ (tenacity)、不屈の努力 (perseverance)、コミットメント (commitment) が必要です。「千里の道も一歩から」といいます。皆さんは長い道程の第1歩をすでに自分の力で踏み出しました。これから先、教官は皆さんの相談にのり、サポートし、必要に応じてアドバイスします。しかし、4年間の道程を歩むのは皆さん自身です。

学生生活の最初の1年間は重要な時期です。何故ならこの時期に、自ら学ぶ、主体的な学習方法を学ぶ必要があるからです。自分に必要なことを自ら学びとる方法を学ぶには時間がかかります。始めは少し混乱するかもしれません。しかし、自分に必要なことを見極めて、様々な資源を活用し、必要な知識や情報を収集し、かつその内容を吟味・取捨選択し、自分のものとする、主体的な学習プロセスのふみ方を身につけてください。自分が本当に「わかる」学習の方法を繰り返し訓練し身につけることによって、学習がより充実したものになっていくでしょう。また、良い習慣は自分の助けとなりますから、最初の1年間で、自ら学ぶ方法を学ぶと同時に、学習に関する良い習慣を形成してほしいと思います。

知識の習得は大切ですが、看護の知識は自分の直面している状況に応じて変化させ応用できるものでなくては生きた知識とはいえません。看護に必要

な学習内容はカリキュラムの中に組み込まれています。カリキュラムに組み込まれている科目をみると、様々な分野の内容をたくさん学習することが求められていることがわかります。授業に追われると、ともすれば覚えなければならない知識の量に圧倒され、暗記が中心となりがちです。しかし、知識の習得は知識の記憶ではありません。知識を自分の頭で消化し、考え、自分の言葉で表現し、応用してください。知識をつかって考えたり、実践したりするなかで知識を自分のものにしてほしいと思います。

これからの4年間学習していく上で大事なことは、学習していく上での仲間をもつことです。共に看護を学ぶ者として、学習内容に関連した議論をしたり、頭を寄せ合って考え、集まって一緒に学習することのできる仲間を是非つくってください。これから4年間看護を学んでいく過程で様々なことを体験するでしょう。その過程で、互いに励まし合い、支え合い、お互いの力になれる学習仲間の関係を大切に育んでいってほしいと思います。

看護に必要なのは、人間への関心、判断力、実行力です。人間への関心を伴った判断力や実行力を身につける4年間になるかどうかは、皆さん一人一人にかかっています。自分の健康に気を配り、実りある学生生活を送ってください。そして、自分自身の4年間の道程に誇りを持って卒業を迎えることを期待しています。

(看護学科 助教授)





新入生を迎えて

医学科第6学年 水上 周二



この時期になると書店には新学期用の教科書が所狭しと並び、それを買う新入生をよく目にします。

おそらくその教科書は一度も開かれることがないと思うと少しばかり心が痛むのですが、それでも新しい生活に向けて着々と準備を整えていく嬉しそうな姿は見ていてなかなか気持ちの良いものです。新入生の皆さん、改めて入学おめでとうございます。

これから6（4）年間の学生生活が始まる訳ですが、長いようであつという間に過ぎてしまいます。

私自身、ついこの間入学したと思ったら、いつの間にか6年生になってしまい、上下白服で実習を行っており、皆さんのいる教育棟へ行くと知らない顔

ばかり。部活の後輩からは『先輩、コスプレですか？』などと言われる始末です。

講義、実習、試験などは勿論ありますが卒業して仕事が始まると到底作れないような自由な時間がこの6（4）年間にはたっぷりあります。その自由な時間の使い方次第で学生生活は楽しいものにもなり、又つまらないものにもなってしまいます。旭医では部活や同好会の数が多く、又活動も盛んなため部活に入り仲間と共にとことんやるのもよいでしょう（ここ数年のあまりにもくだらなすぎる部活の勧誘規制のために新入生と部活の先輩との交流が減ってしまったのは非常に残念です）。旅行を楽しむもよし、酒を飲むもよし、使い方は皆さんの好きなように。

看護学科も2年目を迎え、交流の場も更に増えるでしょう。色々な人と話し、意見を交わし、そしてとことん楽しんで充実した生活を送って下さい。

新入生を迎えて

看護学科第2学年 武田奈津美



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、新しい地に立ちたくさんの希望に胸弾ませていることと思います。私も一年前、この大学に不安と期待

を持って入学してきました。白衣に身を包んだ6年生、解剖実習をこなす3年生、医大に来たのだなど実感したものでした。

私達は、前期に看護基礎理論の授業で「人間とは」「看護とは」という問いを皆で討論し、自分の意見を伝え、相手の意見に耳を傾け、理解することで自己の看護観を発展させてきました。また後期からの生活援助論の授業では自分達でデザインしたユニフォームを着て、清拭など看護の基礎技術を演習してきました。看護学科の先輩がいないことで大変なことも沢山ありました。しかし、友人とあれこれ考え、助けあいながら多くを学んだと思っています。大学は自分から積極的に勉強するところです。皆さんも

周りの友人と刺激しあい、助けあいながら多くのことを学びとって下さい。

全国各地から初対面の人達が集いました。今の時期は戸惑うことも多いと思いますが、同じ目的を持って集まった仲間です。自分とは考え方の違う人もいるでしょう。でも、そんな人たちと接することで自分の内面を磨き、新しい自分を発見して下さい。そうすれば気の合う仲間も見つかるでしょう。大学生活を楽しく幅広い出会いをするために部活動や同好会に加入することをお勧めします。旭医大の周辺に特別何も無いこともあり、部活動の加入の有無が大学生活に少なからず影響すると思うからです。私も先輩に部活内だけではなく勉強などでも大変お世話になりました。また、信頼できる友人にも出会えました。

旭医大の看護学科は開設して2年目の新しい学科です。私達も試行錯誤しながら過しています。わからないことがあったら気軽に話かけて下さい。共に優意義な学生生活を送りましょう。

平成8年度学位記受領者名簿

氏名	課程・論文の別	学位記授与年月日
石井良直	論文博士	平成8年6月28日
紀野泰久	課程博士	平成8年6月28日
中澤文朗	論文博士	平成8年6月28日
藤尾直樹	論文博士	平成8年6月28日
山本康弘	論文博士	平成8年6月28日
山本浩史	論文博士	平成8年6月28日
渡邊真司	課程博士	平成8年6月28日
渡邊泰男	論文博士	平成8年6月28日
岡本美穂	論文博士	平成8年9月30日
長内忍	論文博士	平成8年9月30日
木村圭介	課程博士	平成8年9月30日
今野優	論文博士	平成8年9月30日
須貝理香	課程博士	平成8年9月30日
大谷則史	論文博士	平成8年12月25日
沖潤一	論文博士	平成8年12月25日
加藤隆文	論文博士	平成8年12月25日
千葉篤	課程博士	平成8年12月25日
西岡洋	論文博士	平成8年12月25日
吉田博希	論文博士	平成8年12月25日
安部裕介	課程博士	平成9年3月25日

氏名	課程・論文の別	学位記授与年月日
碓井正	課程博士	平成9年3月25日
小山内誠	課程博士	平成9年3月25日
柏木雄介	課程博士	平成9年3月25日
川田佳克	論文博士	平成9年3月25日
東理玲子	論文博士	平成9年3月25日
北田正博	論文博士	平成9年3月25日
穴戸稔聡	論文博士	平成9年3月25日
杉村敏秀	課程博士	平成9年3月25日
田森啓介	課程博士	平成9年3月25日
遠山義浩	論文博士	平成9年3月25日
苔米地正之	論文博士	平成9年3月25日
野村雅宏	課程博士	平成9年3月25日
長谷川公範	論文博士	平成9年3月25日
藤田結花	論文博士	平成9年3月25日
藤野貴行	課程博士	平成9年3月25日
堀川道晴	課程博士	平成9年3月25日
宮本敏伸	課程博士	平成9年3月25日
吉田行範	論文博士	平成9年3月25日
Delamou Alexandre Dicko Md. Mozammal Hoq	課程博士	平成9年3月25日
	課程博士	平成9年3月25日

平成9年度大学院入学者名簿

氏名	専攻	研究指導教官
熱田義顕	生体防御機構系	片桐 一
飯田高久	生態情報調節系	牧野 勲
岡田優二	生態情報調節系	高後 裕
岸部幹	生態情報調節系	海野 徳二
後藤順一	生態情報調節系	(葛西 眞一)
小林幸恵	生態情報調節系	菊池 健次郎
佐藤智信	細胞・器官系	高後 裕
進藤基博	細胞・器官系	高後 裕
高宮央	生態情報調節系	吉田 晃敏
高本秀二郎	生態情報調節系	牧野 勲

氏名	専攻	研究指導教官
谷野弘昌	生態情報調節系	松野 丈夫
中出幸臣	生態情報調節系	牧野 勲
藤谷佳織	生体防御機構系	高後 裕
本間大	生体防御機構系	飯塚 一
丸山直紀	生態情報調節系	牧野 勲
本村亘	生体防御機構系	高後 裕
山本ゆき子	生態情報調節系	牧野 勲
肖春陽	生体情報調節系	安孫子 保
シャリ ファイナ ダイナラ	細胞・器官系	石川 睦男
馬紅	生体情報調節系	安孫子 保

外国人留学生一覧

平成9年4月1日現在の本学在籍の外国人留学生は、大学院学生12名、学部学生3名、特別研究学生

3名の合計18名です。

18名の方々は一覧のとおりですが、挨拶を交わすなど簡単なことから交流を深めてゆきたいものです
(学生課)

氏名	通称	性別	国籍	種別	期間	所属
Duenas Julio Cesar デュエニアス フリオ セッサー	フリオ	男	ペルー	大学院学生	1994. 4. 1~ 1998. 3.31	産婦人科学講座
Santos Severino Barbosa Dos サントス セベリーノ バルボザ ドス	サントス	男	ブラジル	大学院学生	1994. 4. 1~ 1998. 3.31	内科学第三講座
Saha Shyamal Kumar シャハ シヤマル クマル	シャハ	男	バングラ デシュ	大学院学生	1994. 4. 1~ 1998. 3.31	生理学第一講座
Ainory Peter Gesase アイノリー ピーター ゲサセ	ゲサセ	男	タンザニア	大学院学生	1995. 4. 1~ 1999. 3.31	解剖学第一講座
陳 敏 チェン ミン	チェン	女	中国	大学院学生	1995. 4. 1~ 1999. 3.31	薬理学講座
于 立志 ウー リッシ	ウー	男	中国	大学院学生	1995. 4. 1~ 1999. 3.31	産婦人科学講座
白 躍 宏 バイ ユエホン	バイ	男	中国	大学院学生	1995. 4. 1~ 1999. 3.31	整形外科学講座
金 殷 鉄 ジン インティエ	キン	男	中国	大学院学生	1996. 4. 1~ 2000. 3.31	内科学第一講座
郝 双 林 ハオ シャンリン	ハオ	男	中国	大学院学生	1996. 4. 1~ 2000. 3.31	麻酔・蘇生学講座
Sharifa, Dinara シャリファ ダイナラ	ダイナラ	女	バングラ デシュ	大学院学生	1997. 4. 1~ 2001. 3.31	産婦人科学講座
馬 紅 マ ホン	マ	女	中国	大学院学生	1997. 4. 1~ 2001. 3.31	薬理学講座
肖 春 陽 シャオ チュンヤン	ショウ	男	中国	大学院学生	1997. 4. 1~ 2001. 3.31	薬理学講座
李 恩 有 リ エンユウ	リ	男	中国	特別研究学生	1996.12. 7~ 1997. 9.30	麻酔・蘇生学講座
蘇 慶 寧 スー シンニン	スー	男	中国	特別研究学生	1997. 3. 1~ 1999. 3.31	解剖学第一講座
Mansur Khalil マンズール キャリル	マン ズール	男	バングラ デシュ	特別研究学生	1997. 3. 1~ 1999. 3.31	解剖学第一講座
Azurawati Md Alwi アズラワティ モハマッド アルワイ	アズラワ ティ	女	マレーシア	学部学生	1994. 4. 1~ 2001. 3.31	第3学年
Syamsul Muhammed シャムスル ムハマット	シャム スル	男	マレーシア	学部学生	1994. 4. 1~ 2001. 3.31	第3学年
Azaharuldin Abduliah アザハルルディン アブドゥーラ	アザ ハル	男	マレーシア	学部学生	1997. 4. 1~ 2003. 3.31	第1学年

研究室紹介

■ 細菌学講座 ■ 吉田 逸朗

昭和48年に開講した細菌学講座は、東教授のもとに馳せ参じた講師1、助手1の3人の陣容で出発した。以来幾星霜—という言葉がおおげさには響かないほどの時間が過ぎ行き、平成9年4月現在の教室員は、東教授、吉田助教授、錫谷助手、小笠原助手、畠中技官、芝木大学院生、竹田研究生、及び折に触れて顔を見せるOB、OGの面々である。開講以来、一貫して追究されてきた教室の研究主題はウイルスである。以下、その概要を紹介する。

ウイルスは、遺伝子であるDNAまたはRNAと、それを包む殻または皮を基本構造とし、自分自身では増殖することが出来ない。従って彼らが存続するためには、他の生物の細胞内にもぐり込み、更に、その細胞内装置を借用して子孫を増やす、偏性細胞内寄生性という性質が必要不可欠となる。ウイルスの病原性は、増殖に伴って宿主の細胞を直接変性させる作用と、宿主の免疫系等の活動を変化させる作用の両者によって出現する。ウイルスのどのような遺伝情報が病原性の発現に繋がるのかを、ヘルペス

ウイルス科のウイルスを材料として、分子生物学的並びに遺伝子工学的に解析することが当教室の研究主題の1つである。この主題は、ウイルス遺伝子産物の生物学的意義の解析も視野に入れて進められている。もう1つの研究主題はウイルス感染に対する宿主側の応答様式の解析である。インフルエンザウイルス感染における免疫担当細胞の挙動、インターフェロンを始めとするサイトカインの役割に関する解析等が進められている。これら2主題の研究は新規抗ウイルス剤開発等において連携しており、医学科3年目の細菌学並びに本年開講した看護学科2年目の感染免疫学の担当による感染症の基礎教育と併せて、ウイルス病の克服が当教室の使命と言えよう。

毎週火曜日の夕方から教室図書室で始まる抄読会(抄読会)は、文献上の最新知識(及び酒精)を吸収しつつ、20年以上に亘って続けられている。また、図書室の窓口である畠中技官は、実験器材の調製と共に、教授秘書並びに事務の人として渉外業務にも当たっている。基礎臨床研究棟4Fにお越しの際には、細菌学教室図書室に是非お立ち寄り下さい。

(細菌学講座 助教授)

新歓合宿を終えて

新入生歓迎実行委員会委員長 第2学年 北川 敬之

先日、毎年恒例の新歓合宿を無事終えることができました。新歓委員は、11月から動き始めましたが、本格的な活動は年が明けて、特に3、4月になりました。今年は看護科も含めて60数名の新歓委員が集まりました。これも去年の方々のおかげだと思います。去年の私達の楽しさを伝えるためにも様々な企画を立て働いてきました。合格者に郵送するパンフレット、下宿・アパート等の案内の印刷・製本、ホテルでの受験案内、受験生へのお茶配り、広告集め、入学後の病院実習の手配等、全ての新歓委員が分担してこれらの仕事に取り組んで来ました。そして合宿当日には49人の新歓委員がバンダナをまいて働きました。合宿ではクラブ紹介、学内巡り、クラブ出店が行われたあと神居歓光ホテルへ移動し、チュー

ターとの談話、クラブ乱入、新入生同士の語らいなどが行われました。多少新歓委員がはしゃぎすぎましたが、新入生の方々にも楽しんでもらえ、良い思い出が出来たのであれば、これ以上嬉しいことはないです。

新歓合宿が終わり一息つきましたが、病院実習が残っているので最後まで気を抜かないようやっていきたいと思います。

ここまでの新歓行事を振り返ってみれば、とても沢山の人の助けられました。この新歓の仕事を通じてより多くの人とのつながりが強まったと思います。多くの人に迷惑もかけました。多くの人に心配してもらいました。至らない所が多かった自分ですが、ここまでやってこれたのは皆さんのおかげだと思います。どうも有難うございました。この場をお借りして沢山の方々の温かい心遣いに、厚く御礼申し上げます。

大学祭実行委員会より

大学祭実行委員会委員長 第4学年 豊島 優人

私は旭川医大に入学して今年で4年目になります。今、入学した頃のことを思い出してみると旭川医大の大学祭は私にとって大学生の自覚をあらたにくれた素晴らしい思い出です。講演会、医学展や模擬店など興味深いものが多く、とても素晴らしいものでした。

ただ残念なことに、その後、毎年のように「今年は大学祭実行委員が集まらなくて学祭はないらしいよ。」という噂を聞きました。しかし、そういう噂がささやかかれても毎年大学祭は開催されました。誰かが大学祭の準備をして開催に向けて取り組んでいたのです。私も今までは誰かが大学祭の準備をして開催してくれるだろうという消極的な考えを多少なり持っていました。しかし、「今年は私たちの手で

大学祭を盛り上げよう」ということで、今年初めて大学祭運営に携わることになりました。

学生が自分たちでいろいろなことを企画し、実行できる大学祭はとても魅力があります。そして、その大学祭を成功させる鍵はチームワークにあると思います。それは大学祭をやり遂げることは非常に難しく、一人ではどういできることではなく、大学祭は多くの学生が参加して力を合わせて初めてできることだからです。

私たち一人一人が協力し合って大学祭を作り上げることができれば学生生活はより有意義なものになるのではないかと思います。

最後に私たちをご支援してくださった諸先生方、並びに学生課を始めとする事務の皆様方、快く協力を申し出てくださった方々に心から感謝いたします。

ク ラ ブ 今 昔

サ ッ カ ー 部

第5学年 吉谷 敬

サッカー部が発足したのは、今から約25年前の第1期生のころだったそうです。といってもこのころは、人数もそれほど多かったわけではなくボールを蹴りたい人が数人しか集まらなかったときいています。ただ、1期生のOBの先生のお話では、旭川空港まで往復を走るようなことが、わりと頻繁にあったようでけっこうきつい練習をしていたと聞いています。ごくたまにですが、このころのOBの先生に飲み会などで会ったりすると店の前で円陣を組んで叫びだしたり、カラオケでシャ乱Qを歌ったりマイクをもって回転したりと、今の僕らではできないようなことをしていらっしやるのを見ると、学生時代にいろいろと一生懸命にやっていたらというのがよくわかるような気がします。(無論この様子では練習だけではないようですが。)

その後、第4期生以降ぐらいから、チームとして試合ができるくらい的人数がそろってきたと聞いています。この当時は、「少数精鋭でねえ、強かったよ。」というのを、そのころ現役だったOBの先生がおっしゃっていました。現在、我がサッカー部は北海道学生リーグの3部にいますが、当時はずっと1部にいたそうです。そして、このころの記録をみ

てみると、その中の一つに「北医体優勝」というのがありました。

先日の5月31日と6月1日の両日、この北日本医科歯科学学生大会である北医体が我が旭川医大の主管で行われました。大会の運営に関しては、大会実行委員長をはじめサッカー部員、マネージャー、その他在学学生と他大学の協力もあり、無事終了させることができました。そしてサッカー部の顧問である第一内科の教授の菊池健次郎先生にも非常にお世話になりました。大会は、一勝一敗で予選リーグ止まりで、決勝トーナメントに行けませんでした。どうしても勝ちたかった大会で上に行けなかったのは少々残念でしたが、運も含めてこの結果は実力ですから仕方ありません。

しかしこれを糧に日々の練習を続けていきたいと思えます。試合で苦しい思いをするよりは、練習が辛い方がずっと楽ですから。

最後になりましたが、いつも多大なる援助をしてくださっているOBの先生方、そして顧問の菊池先生、本当にありがとうございます。僕らサッカー部も1つの団体として、部員だけではなくマネージャーや多くの先生方そして学校の協力があって成り立っています。そのことを忘れず医学生、社会人としての立場を自覚して、がんばって練習していきたいと思えます。

旭医大バレー部 創設期の思い出

第2期生 相馬光宏・平田 哲

1974年、北海道教育大学附属小学校あとの仮校舎から、新築された本校舎へ移って間もない頃、大雪山系を見渡せる真新しいテラスに誰からともなく集ってきて、家から持ってきたボールで輪になって始めたバレーボール。その頃数少なかった女子学生に目立とうとしたのか、突然1人がジャンプしてアタックを打ち始める。これに合わせて1人がクイックでトスをあげ始めた。こんな輪の中から我が旭川医科大学男子バレーボール部は生まれた。

初めて参加した公式試合(第21回北海道地区大学体育大会)では、大声で「よし子!」(Aクイックの意味)、「かな子!」(Aクイックと見せかけて平行パスできめるの意味)と叫びながらのコンビネーションバレー。その結果あせりを誘い、相手チームが力を出しきる前に試合は終わっていた。その夜の宿舎での藤女子短期大学テニス部との押しかけ合コンでは短期間ではあったが複数のカップルが生ま

れた。更に、はるばる室蘭までついてきて下さった学生課の高木課長さんにごちそうになった焼鳥の味は今でも忘れられない。

この頃の「新設」旭川医科大学には教官・事務職員・学生が一丸となってクラブ活動をも盛り上げていこうという雰囲気があり、更には中華料理店「百楽」のおじさんを筆頭とする地域住民の暖かい視線の中で、バレー部は第23回北海道地区体優勝、北海道1部リーグ入り、東医体2連覇へとつき進んでいくことができたのである。

創部以来23年を経過した今、OBは70名を超え、その中からはすでに母校の講師が2名誕生し、更に全国に散って診療の第一線や教育・研究の中堅として活躍している。バレーボールを通じて育かれた気力・体力・闘志、そして学年・学校を越えた人との触れ合い・友情、これらは医師として働く1人1人のかけがえのない財産として大きな力になっているにちがいない。創部以来、「旭川医大のクラブ活動をリードしていこう!!」という気概に燃えるバレー部の健闘に今後も期待したい。

室内合奏団

第4学年 二川原真治

私たち室内合奏団はヴァイオリン、チェロなどの弦楽器によるオーケストラです。年々大所帯になり、昨年は団員が30名を超えました。人数は多くても、そのほとんどが初心者なので、すぐさま戦力に、というわけにはまいません。

弦楽器の演奏技術の習得には長い時間を要すると言われていて、人様に聴かせるには10年かかるとか。それでも、他大学の楽団では初心者から始めて、在学中に相当の腕前にまでなるそうです。

一方、私たち室内合奏団団員のなかには経験者が少ないためか、後輩の育成がなかなか思うようにいきません。幸いなことに、室内合奏団は以前より市内のヴァイオリン教室の先生のご好意で、ご指導いただいております。そのお陰で、向上心溢れる後輩たちが多くのことを学んでいるようです。

かつては運動部活動などの片手間に楽器を弾きに

来る団員も多く、そのため、存在感も薄くなり、学内に室内合奏団の名を知らないという人が少なくなかったようです。

時代も移り最近では、この室内合奏団の活動に打ち込んだり、あるいは兼部でも熱心に練習する団員が多くなりました。合奏練習の出席率も良くなりました。大変喜ばしいことです。また、今年の新入団員の中には「他のクラブには所属せず、室内合奏団の活動に専念したい」という声が多く聞かれ、期待に沿えるかと、ちょっぴり不安を感じています。

このように団員の演奏に対する熱意も盛んになってきたところで、これからは対外的な演奏活動にも力を入れ、活動内容も運動部に負けなくらい充実させていきたいです。北日本医科学学生オーケストラフェスティバルにも参加し、東医体のように他大学との交流を深め、より一層の向上に努めます。

また、単に自分達だけで楽しむのではなく、多くの方々に聴いていただけるような演奏を目指します。その第一歩として今年初の定期演奏会に挑戦です。

女子学生のひろば

第5学年 清光祐貴子

「女子学生のひろば」は昭和56年にできたと聞いています。私もあまり詳しいことは知らないのですが、その当時は学年に占める女子学生の割合が1割にも満たないくらいだったので、女子学生が学年を問わず交流し合える場にしようという目的で作られたようです。しかし、最近では女子学生がその頃の倍以上に増え、交流の場から女子医学生特有の問題について語る場が変わったように思います。私が入学する前までは毎年、「女医さんと語る会」が行われていたそうですが、私が入ってからは、私が「全国女子医学生の会」の会員になっているということもあり、そこで発行している「ほろほろ鳥通信」という会報を読んで、女子医学生の抱える問題について学習したりするのが主な活動になっています。

そこで、この「全国女子医学生の会」について紹

介したいと思います。この会は、今から約20年程前に、北海道大学医学部の女子学生が中心になって作られたそうです。ここでは女医の将来について（結婚・出産と仕事との両立などの問題）や、学内設備（女子トイレやロッカー）についての改善のために全国の女子医学生の声を集める活動が行われてきたということです。現在は全国医学生ゼミナールに分科会を出すなどして、女子学生だけでなく男子学生にも広くこれらの問題について呼びかけています。これらの活動のおかげで、全国に約200名余の会員がおり、その中には男子学生もたくさんいて、一緒に問題に取り組んでいます。

今、旭川医大には、各階ごとに女子トイレが設置されており、セミナー棟には女子控え室も設けられています。これらは最初からあったわけではなく、先輩方の努力によってできたものと聞いています。このことを忘れず、これからも活動していきたいと思っています。

学 内 ニ ュ ー ス

平成9年度入学式

医学科・看護学科の入学式が、4月11日(金)10時から本学体育館において挙行されました。

式では、新入生161名を代表して医学科 阿部展子さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに大学生活の第一歩を踏み出しました。

(学生課)



入 学 式

新入生研修実施される

平成9年度新入生研修が、医学科4月21日(月)・22日(火)の両日、看護学科4月24日(木)～25日(金)の1泊2日で実施されました。

医学科は、新入生を12～13名のグループに分け、1グループに若手を含む2～3名の教官が指導にあたり、自己紹介について学生生活全般にわたり助言並びに懇談が行われました。

また、看護学科は、2日間にわたり合宿研修が国立大雪青年の家において実施され、今後の学習への取り組み方、人との関わりについて指導・助言などがあり、また、交流会では、新入生間・新入生と教官間の親睦を深めました。

(学生課)



医 学 科



看 護 学 科

平成8年度学士学位記授与式

平成8年度学士学位記授与式が、3月25日(火)10時30分から本学体育館で挙行されました。

式では、室内合奏団が奏でる調べの中、学長から卒業生99名一人ひとりに学士学位記が手渡されました。

ついで学長から卒業にあたり式辞が述べられました。

(学生課)

平成9年度運営組織

本学には、医学教育についての調査研究、教育課程の編成、修学指導、授業及び試験の実施、単位の修得及び履修、学籍関係等について審議する機関として教務委員会があります。

また、学生の厚生補導に関する調査研究、学生の課外活動、福利厚生等について審議する機関として厚生補導委員会があります。

両委員会の平成9年度の委員は次のとおりです。

(平成9年4月1日現在)

〈教務委員会〉

委員長	片桐 一 (副学長)
副委員長	岩渕 次郎 (図書館長)
委 員	中村 正雄 (医学科第1学年学年担当)
	岡田 雅勝 (医学科第2学年学年担当)
	松嶋 少二 (医学科第3学年学年担当)
	坂本 尚志 (医学科第4学年学年担当)
	油野 民雄 (医学科第5学年学年担当)
	菊池健次郎 (医学科第6学年学年担当)
	阿部 典子 (看護学科第1学年学年担当)
	野村 紀子 (看護学科第2学年学年担当)
	山内 一也 東 匡伸
	石川 睦男 北村久美子

〈厚生補導委員会〉

委員長	片桐 一 (副学長)
副委員長	黒島 晨汎
委 員	谷本 光穂 平塚 寿章
	松岡 悦子 亀下 勇
	小川 勝洋 飯塚 一
	廣川 博之 北 進一
	岡田 洋子 岩田 銀子
	松谷 洋子 酒木 保

(学生課)

平成9年度の主な行事

4月11日	入学式
4月21日～22日	医学科新入生研修
4月24日～25日	看護学科新入生研修
6月6日～8日	医大祭
9月10日	体育大会
9月24日	解剖体慰霊式
11月5日	本学記念日
3月25日	学士学位記授与式 (学生課)

教官の異動

辞職	97.3.31	眼科講師	秋葉 純
〃	〃	麻酔蘇生科	〃 赤間 保之
〃	〃	放射線部 助教授	竹井 秀敏
〃	〃	内科学第三 講師	柴田 好

辞職	97.3.31	産科婦人科 講師	川村 光弘
〃	〃	放射線科	〃 高塩 哲也
転出	〃	第1内科	〃 箭原 修
定年退職	〃	精神医学 教授	宮岸 勉
〃	〃	脳神経外科学	〃 米増 祐吉
昇任	97.4.1	内科学第一 助教授	羽根田 俊
〃	〃	内科学第三	〃 小原 剛
〃	〃	第1内科 講師	長谷部直幸
〃	〃	〃	〃 大崎 能伸
〃	〃	第3内科	〃 横田 欽一
〃	〃	産婦人科学	〃 玉手 健一
採用	〃	看護学科 助教授	松谷 洋子
〃	〃	〃	〃 北村久美子
昇任	〃	〃 教授	望月 吉勝
〃	97.6.1	放射線科 講師	秀毛 範至
辞職	97.6.30	整形外科 助教授	平山 隆三
限り退職	〃	学長	清水 哲也
昇任	97.7.1	〃	〃 久保 良彦



外 怨

橋本喜夫

生涯1度だけの敗戦

子供の頃から相撲だけは強かった。人口2000人弱の漁村に生まれ育ち、娯楽らしいものは何一つない町であった。近所に一つ年上の友達がいる、幼稚園の頃は彼と毎日100番以上相撲をとって遊んでいた(稽古をしていたといってもよい)。私の町は、相撲大会が盛んで、毎年秋祭りには、神社の境内にある当時としてはかなり立派な土俵で、子供から大人まで相撲をとる機会があった。子供の部では、小学校1年生から6年生まで、学年単位で行われ、10人勝ち抜くと、当時としては1年分位の鉛筆、ノートなどの学用品が景品として頂戴できる。私は、1年生から5年生まで、ずっと景品にありつきた。計50連勝していたことになる。小学校3年生の終りには、父親に勝てるようになり、4年生の時に近隣市町村の大会で優勝した。5年生の頃は相撲を取ることが楽しく、負けることなど考えもしなかったし、漠然とプロの相撲取りになりたいと思っていた。6年生の時の秋祭りに、恒例の相撲大会があり、いつものように勝ちつづけた。8人目の相手が同級生のY君だった。今まで何度も試合をして、負けたことがない相手であった。当時の私の得意技は、左からの「上手投げ」と右からの「呼び戻し」という技であった。勿論、「寄り切り」「押しだし」で勝つことは簡単であったが、相手を土俵上になげとばすことが快感になっていたし、相撲に関して高慢であった(医局員には他のことでも高慢だといわれている)。この時も土俵中央で四つに組んだ後、私は左上手か

らふり、右下手で投げ飛ばす「呼び戻し」をしかけた。その瞬間、Y君の左足が、私の右足にタイミングよく掛かり(外掛け)、私はもろくもくずれ落ちた。咄嗟に右にうっちゃったが、私の背中がY君より一瞬早く土にまみれた。審判の「物言い」がしたが、結局は私の負けであった。敗因は弱いから負けたのであるが、セオリーを無視した「逆足」にあった。右下手をとったときは、相手の「ひきつけ」を防ぐために右足を後ろに下げるのがセオリーである。しかし、この時私は「呼び戻し」をかけやすくするために、前もって右足を前にだして「逆足」をやっていたのである。しかし1番の敗因は「どうやったら勝てるか」ではなく、「どのように勝つか」を考えていた慢心であったことは明らかである。この一つの敗戦はその後、自分自身の生き方や考え方に少なからず影響を与えた。一言でいうと「負けることを極端に恐れる性格」になってしまった。かなりnegativeにももの考えるようになり、2年後に先代の時津風部屋から入門の勧誘があったときも、大相撲の世界には飛び込めなかった。何よりも辛い稽古に耐える自信もなかったのである。その後現在まで、何度となく遊びで相撲をとったことはあるが、一度も負けたことはない。これは私が強いからではなく、負けそうな相手とは相撲をしなかったからである。あのY君は現在、故郷の町役場に勤務している。彼もあの時の相撲のことを覚えていて、彼の左からの「外掛け」は咄嗟にでた技ではなく、私が「呼び戻し」を仕掛けてくるのを2年前から待っていたというから恐れ入る。あれから25年たって、私の「負けることを恐れる性格」は研究面では、negative data を恐れ、negative に作用しており、診療面ではついつい「最悪の事態がおこる」ことを想定してしまい、やはりnegativeな結果を患者さんにもたらしているのではと密かに恐れている。

(皮膚科学講座 助教授)